

7月4日 イラン国家安全保障外交委員長 ボルジェルディ閣下講演会録

笹川平和財団・羽生次郎会長による挨拶

まずは、ボルジェルディ閣下を始め、イラン日本友好議員連盟の皆様方の訪日を歓迎いたします。私ども、笹川平和財団では4月から笹川中東イスラム基金を設立しました。この基金は中東イスラム諸国と日本との交流に重点をおいて、事業をすすめていきたいと考えております。日本と中東イスラム諸国との関係において、1千年の長きに亘り闘いの歴史がないにもかかわらず、残念なことに人的交流や相互理解の促進といった側面での活動が十分ではないのが現状です。当基金の松尾運営委員長のお言葉で、中東には雲は出るが雨が降らない、これはどういうことかということ、このような交流事業において、掛け声ばかりで実行が伴わない事が多いと。私達の基金では、実際に大雨を降らせるごとく、この事業を数多く展開していかなければならないと考えております。よって、今後は日本のオピニオンリーダーのような人物を、イランにお連れするといった事も是非とも行っていきたいと考えます。最後に今回の滞在が、皆様方にとりまして実り多きものとなりますことを祈念しております。

アラグチ駐日イラン・イスラム共和国大使よりご挨拶とボルジェルディ閣下他紹介：

このような機会を設けて下さった、笹川平和財団の羽生会長には心より感謝申しあげます。ボルジェルディ閣下は、イラン・イスラム共和国国家安全保障外交委員長であり、イラン日本友好議員連盟会長を務めておられます。この国家安全保障外交委員会は、国会の中で最も影響力のある組織であり、また閣下自身も極めて政界において影響力があり、広い人脈がある方です。そして今回のイランの大統領選挙後の混乱を沈める為、貢献されました。国会議員になる前は外務省でアジア担当事務次官の要職にあり、私はその部下の一人でした。日本は当然、委員長の担当エリアの一つでありました。

今回この一行には、テヘラン大学の教授、聖職者、改革派の議員も含まれております。今年、イランと日本との外交関係開設 80 周年を迎えました。もちろん、両国の交易や文化交流の歴史はシルクロードの時代にさかのぼります。私は駐日大使に就任し1年数ヶ月が経ちますが、この間、両国政府間のハイレベルでの対話、議員交流は大変活発に行われました。昨年6月には、ローマにて、当時の福田内閣総理大臣とイランのアフマディネジャド大統領との首脳会談が行われ、この会談は両国関係の大きな転換点となりました。また、中曽根外務大臣が日本の外相として 5 年ぶりにテヘランを訪問されるなど、一層両国の距離が縮まりました。外相会談ではアフガニスタン支援について合意がなされ、共同声明が発表されました。イラン・イスラム共和国は地域の大国として、中東・ペルシャ湾地域において重要な役割を担っています。

ボルジェルディ閣下よりイランの内政および外交政策についての講演：

今回、イラン日本友好議員連盟の委員とともに訪日できたことは大変喜ばしく、笹川平和財団にはこのような機会をいただき、感謝いたします。紹介下さったアラグチ大使はイランの政界に大変影響力のある人物で、外務事務次官として手腕を発揮した方です。

我々は、イランと日本は同じ東洋に属する家族であると認識しています。またイラン国民は親日感情が強く、一方、テヘランで行われたイラン・パキスタン・アフガニスタン 3カ国首脳会議に麻生総理がメッセージを送ってくれました。国というものはそれぞれが国益を追求するものです。国連安保理による経済制裁が行われておりますが、ビジネスで果敢にイランに進出するドイツと鉄道事業において 200 億ドルの契約を、エネルギーの分野においてもスイスとは 120 億ドルを超える契約を締結しました。イランは他にも西側諸国と経済における契約を次々と締結しています。

またアメリカからも政治経済の分野で、様々なシグナルが送られています。わが国はウラン濃縮の停止を 2 年半実施してきました。これにより国益は大きく失われました。IAEA エルバラダイ事務局長はイランがなんらルールを逸脱していないと発表したにもかかわらず、欧米諸国はこの声明を無視しました。これは NPT（核拡散防止条約）の加盟国として、原子力の平和利用の権利を著しく損なうものでした。締約国の原子力の平和利用の権利というものは NPT 第 4 条にて保障されています。イランは合法的な権利を奪われることを見過ごすことは出来ません。イランはかつて、核技術開発のために 20 機の遠心分離機を設置する許可を申請しましたが、彼らの答えは否定的なものでした。私達は国益を守るものとして、これにより著しく国益が損なわれることを憂慮しました。だからこそ、IAEA の追加議定書の実施停止を発表しました。イランが行ったウラン濃縮の停止は自発的に行ったものです。我々は原子力の平和利用を進めているのです。現在、遠心分離機は 6 000 機にまで拡大しております。イランはウランの採掘から始まり核燃料再処理、また遠心分離機の製造など、一連のプロセスにおいて非常に高度な技術を獲得しました。軽水炉・重水炉の燃料の生産も可能としました。イラン原子力庁は、2 年前から国際入札を実施しています。しかし、発電のための原子力エネルギー利用は承諾されませんでした。遠心分離機の問題は今も繰り返されています。しかしこの暴挙に屈することなく、軽水炉の建設も着手しました。そして現在 360 メガワットの原発を建設中です。イランにおける原子炉・原発の建設への日本企業の参入を歓迎します。

我々は原子力エネルギー開発において、NPT の条項を遵守しています。ですから、IAEA の理不尽な命令に従うことはありません。イランの核交渉の相手、5 プラス 1 に対しては、イラン側の包括案を提示しています。従って、現在 2 つの包括案が検討されていますが、核問題はそのうちの一部にしかすぎません。米国はイラク問題に関して、イランに協議を申し入れ、大使級協議が 3 回開催されました。アフガニスタン問題においても、レバノン問題においても同様であり、ヒズボラに対するイランの仲介がなければドーハ会議の成功はあり得ませんでした。政治の世界はギブアンドテイクの世界だと考えます。イランと 5 プラス 1 との交渉において、欧州はイランのエネルギーを必要とし、米国は中東問題解決

のためのイランの協力を求めています。そしてイランは、行き詰っている核問題が、NPTの枠内において IAEA の査察の下、解決されることを望んでいます。ここで我々は、天野大使が次期 IAEA 事務局長に選出されたことをお喜び申し上げます。是非とも IAEA が政治的圧力に屈さず運営されることを願います。

イラン大統領選後の国内情勢が大きく報道されていますが、イランが民主的国家であると主張する理由として、投票率の高さが上げられます。民主的というある欧州国の投票率は40数%でしたが、わが国の大統領選挙では有権者の85%にも上る、4000万人以上が投票しました。我が国は、イスラム革命前の独裁体制から宗教的民主主義体制に転換してから、まだ30年しか経っていません。立候補者のテレビ討論会等も実施した結果、国民が熱狂し、大統領選は大変盛り上がりました。しかしアフマディネジャド大統領の再選という、この選挙結果は事前に予想された通りのものでした。一方ライバル候補は20年間もの長い間政界から遠ざかっていました。自ら支援する候補が落選したことを認めたくない一部の若者を中心とする人々によって一連の騒乱がもたらされたというのが事実です。しかしこの混乱を利用したメディアが存在します。欧米系のTV局は一日20時間、この混乱の様子を報道していました。そのような欧米のメディアと比べ、また西側諸国と違い、日本の中曽根外務大臣の声明は、大変中立的なものでした。

最後に羽生会長を是非イランでお迎えし、イランにてこのような会合を開催したいと願います。今後さらに強固な二国間関係が構築されることを祈っております。

質疑応答：

Q) 一つ目は、米国とイランの関係について、関係改善ができないのか？それを阻む要因はなんだと思いますか？また、アラク重水炉の査察を拒んでいると聞きますが、それは何故ですか？追加議定書に日本は批准していますが、原子力の平和利用にはこの議定書は障害にならないと思うが、なぜ批准しないのですか？

A) 米国との関係は一口には語れませんが、彼らはイランに対してやりたい放題であり、長い間支配をしてきました。彼らにとって、イスラム共和国という事実は理解できないのだと思います。最高指導者ハメネイ師の言葉を引用すると「在京イラン大使館からこの全文を入手していただきたいと思いますが」「米国が変革を行うのなら、我々も変革を行うであろう」。米国はイランに対する経済制裁を1年間延長しました。また選挙後の騒乱に関し、自制することができず逸脱した声明を発信したのです。日本からの米国へのアドバイスが有効であると考えます。

アラク重水炉は決して秘密裏に進めているものではありませんし、過去何度も査察を受け入れています。イランはIAEAに対し、疑惑があるなら文書にて照会するよう求め、未解明の6点につき我々は回答し、エルバラダイ事務局長はこれを了承しました。しかし米

国はこの問題を再び持ち出しました。そして今、日本の天野大使が次期 IAEA 事務局長を務めることが決まりました。IAEA がバランスの取れた、論理的で原則にのっとった立場を示せば、アラク重水炉の査察を許可することもあるでしょう。

Q)イランと北朝鮮の関係について教えてください

A)日本の北朝鮮問題についての懸念については理解しております。イランは世界のいかなる緊張関係をも憂慮しております。6 カ国協議が暗礁に乗り上げていますが、再開されなければならないと思っています。革命後からわが国は北朝鮮と良い関係が続いています。だからこそ、この国に対して、日本から要請があれば、橋渡しをする用意があります。要請があれば対応したいと思います。

Q)1つはアメリカとの関係で、対話路線は遠ざかったと思いますか？もうひとつはテヘランでの抗議行動は、社会における若者・国民の不満によるものだと思いますが、政権安定のためにもその不満を払拭するにはどのようなことをするべきとお考えですか？

A)イランは現在安定しております。緊張関係が続く中東において、イランは安全な国です。数十万人のデモについては、これは対立候補の呼びかけに呼応して行われました。対立候補も 1300 万票を獲得したのですから、呼びかければ数十万の民衆が集まっても不思議ではありません。もし本当に国民の間に不満や不安があれば、今も騒乱は続いていたことでしょう。

以上